

Pan Africa News

The Newsletter of the Committee for the Care and Conservation of Chimpanzees, and the Mahale Wildlife Conservation Society



ISSN 1884-751X (print), 1884-7528 (online) mahale.main.jp/PAN/

SEPTEMBER 2011

VOL. 18, 特別号 日本語版

編集部より

この Pan Africa News 特別号は、2011年6月にお亡くなりになった西田利貞先生の追悼特集号です。ご周知のとおり、西田先生は、PANの初代編集長であり、その半生を野生チンパンジーの研究と保全に捧げた方です。西田先生のことをよく知る内外の研究者仲間、友人、先輩、後輩、そして西田先生が育てたマハレの若手研究者たちに、それぞれが持つ西田先生の思い出をご寄稿頂きました。

人生をかけてチンパンジーを追い続けた男を脇で見る機会に恵まれた私たちは、楽しかったり、感心したり、戸惑ったり、笑ったりしながら、野生チンパンジーの魅力を知ることができました。西田先生が多くの人に残してくれたものをここに共有して、今後のチンパンジーの研究保全活動の糧にしていきたいと思います。

なお、通常 PAN は英語での発行ですが、本号では特別に日本語版も用意しました。海外からの寄稿者の英語原稿の翻訳には、多くのマハレの中堅・若手研究者たちのご協力を頂きました。ここに深く感謝致します。



西田利貞さんを悼む

河合 雅雄

京都大学名誉教授

西田さんの訃報を聞いて、「惜しい人物を亡くした」と痛恨の想いに沈んだ。「惜しい」には二重の意味をこめての想いがある。一つは、西田さん自身が、自分の死をいたく惜しんだに違いないと察するからである。50年間心血を注いで研究してきたチンパンジーに関する膨大なデータから、独創的ないくつかの論文が構想され、また、今までの研究成果の集大成の名著を英文単行本での出版などが用意されていたと聞く。それらの実現を夢見たまま、死出の旅路につかねばならない口惜しさは察するに余りがある。ただ、ガンの苦痛と戦いながら完成した“*Chimpanzees of the Lakeshore: Natural History and Culture at Mahale*” がケンブリッジ大学出版局から来年2月に出版される予定であることが、せめてもの饒となった。

もう一つは、日本はもちろんのこと世界の霊長類学にとって、惜しんでも惜しみきれない損失だということである。彼は野生チンパンジー研究のパイオニアである。1965年以来、タンザニアのマハレに研究拠点をおき、ゴンベにおけるJ. グドールグループのチンパンジー研究と相競いあいながら、独自の研究成果をあげてきた。とくに、チンパンジー社会は父系だとする社会構造論、雄

どうしの政治的駆け引き、新しい文化行動の発見とその体系化など、多くのすぐれた論文を発表した。リーキー賞、国際霊長類学会生涯功労賞の榮譽を受け、また、国際霊長類学会会長就任は、彼の国際的評価の高さを物語っている。

2004年、(財)日本モンキーセンター所長に就任した。日本モンキーセンター(JMC)は、日本の霊長類学の出発の拠点であり、シンボリック的存在である。私はこの所長には西田さんが最適者として強く推薦した経緯がある。JMCは世界サル類動物園を経営し、社会教育、資料の収集保存、研究、霊長類の保護、国際学術誌 *Primates* の発行などの博物館活動を行っている。かねてから霊長類学の普及にも熱心な西田さんは、水をえた魚のように精力的な活動を開始した。とくに、環境省による大型類人猿保全研究のプロジェクトの推進、国際連合による大型類人猿保全計画(GRASP-Japan)の日本委員会の事務局をJMCに設置するなどの国際活動を熱心に推進し、JMCの国際的活動を高めた功績は大きい。

病魔と戦いながら、JMCの所長としての職責を果たし、国際的な活動を行い、本の執筆も精力的に敢行した強靱な精神力には、満腔の称讃と敬意を表わしたいと思う。西田さんは多くのすぐれた弟子を育てた。その人たちが結束してマハレのチンパンジー研究基地を守り、故人の遺志を継承し、大きく発展させていくことを期待したい。ご冥福を祈る。